

【クラス】 軽戦士  
【性別】 女  
【年齢】 不明  
【誕生年】 大陸暦562年  
【没年】 不明  
【3S】 81/57/83

ジェラベルン地方の中級貴族の出身。

大陸暦572年、わずか10歳の時に近隣都市から突然の襲撃を受けた彼女は、当時雇用していた傭兵の手によって一人だけ落ち延びる事に成功する。この突然の襲撃から、後の世にカミール丘陵の大戦と呼ばれる4年にも及ぶ戦乱の時代が幕を開けるのだが、未だ幼い彼女は大国によって便利に使われる政治の道具としてしか存在価値を認められなかった。

戦争が終結し、かつての父の領地であった土地に戻ってきた彼女が見たものは、以前と変わらず主として君臨している継母の姿であった。かつては母と呼んでいた人物に剣を向けられた彼女は、都市への襲撃そのものが継母の手引きによるものであった事を知り復讐を果たす。その後、命の恩人に当たる傭兵と共に世界を放浪。

大陸暦580年に、当時大陸南部に存在したロゼッタ王朝に仕官する。その後は、国家騎士団であるナイトオブサンの白光騎士団将軍に任命され、大陸暦581年からの1年戦争に参戦する事になる。アルトリア街道の攻防の後、消息不明。その遺体は最後まで発見されなかった。

## セリフ傾向

元気者系

## キャラ考察

幼少時のジェラベルン襲撃の際に彼女を救ったのはエーレンである。唯一の生き残りである彼女は政治道具として扱われる。継母への復讐の後家を出た彼女は、エーレンと共に各地を点々とする。エーレンと共に居たことで軍事・剣に長けた彼女は、エーレンと共にロゼッタに仕官。アルトリア街道の攻防ではラッセン兵の要・ファーラントを討ち取るも、突如出現した不死者によって窮地に陥りエーレンが盾となって命を落としてしまい、以後彼女も歴史から姿を消してしまう。よく「お嬢様」とからかって来るアドニスに嫌いなようだ

## 戦闘時特殊会話

- [クレセント×ゼノン](#)
- [クレセント×エーレン](#)
- [クレセント×ファーラント](#)
- [クレセント×アドニス](#)